

令和7年度笠岡市廃棄物減量等推進審議会 会議結果

日時：令和8年2月27日（金）
10：00～11：50
場所：笠岡市役所環境課庁舎2階会議室

1 開会

【環境課長が司会進行】

【会長からあいさつ】

【市民生活部長からあいさつ】

2 議事

【会長が議長となり、議事進行】

議事事項 1

第2次笠岡市一般廃棄物処理基本計画後期計画の進行管理について

(1) 笠岡市の廃棄物減量等推進施策

【レジュメ1ページについて、事務局が説明】

(2) 令和6年度笠岡市一般廃棄物処理実施計画の結果検証

【レジュメ2～10ページについて、事務局が説明】

【会長】

- ・進行管理指標の「②リサイクル率」だけが未達となっているので、対策を考えないといけない。
- ・組成調査の生ごみは水切りすれば（重量が）10～20%減るものなので、水切りの徹底を。手つかず食品は4.2%とそれほど多くないが、食品ロス削減のため削減に取り組んでほしい。
- ・処理困難物はどんなものか？

【事務局】

中身が入ったままのびんやスプレー缶、ライターなどがある。

【委員】

組成調査の経年変化を見ると、資源物の割合がそこまで減っていないが、何が要因と考えるか。

【事務局】

ごみを出す際に袋のスペースに余裕があると、できるだけ一杯にして出そうという心理が働く面もあると考えている。令和8年度使用分から1人世帯・2人世帯の袋の大きさを30Lから20Lに見直し、容量が小さくなることで、より分別意識が高まると見込んでいる。現在は30Lの組成調査をしているが、来年度以降は20Lも調査し、組成に変化があるか検証していく。

【委員】

10年程この組成調査を継続しているようだが、あまり変化が見られないということは、何か足りないものがあるのではないかと推察するに、マンネリ化し分別意識が低下しているのでは。

市役所の職員では住民への訴えかけは限界がある。廃棄物減量等推進員に依頼して動いては。職員は自治会単位で説明するなどし、市民への協力を働きかけてはどうか。

他の委員はどう考えるか。

【委員】

そもそも推進員は地域でどんな方が任命され、どんな活動をしているのか。

【事務局】

市全体で137名が任命され、2年任期で各地区の行政協力委員長などから推薦をいただいている。啓発の仕方に関する研修会などに参加してもらっている。また、この度の新焼却場試運転開始や製品プラスチックの一括回収に合わせ、市内で説明会を開催した。推進員には個別で通知をし、説明会に参加していただいた。

【委員】

活動していることがわかったが、地域に知られていないので、例えば市の広報誌で具体的に周知しては。

【委員】

自治会長を長年しているが、そうした人からの活動が見えてこない。意識を変えていかなければいけないのでは。

【事務局】

ごみ出し場の指導など様々活動いただいている方もいるので、そういった方からの意見も聞きながら進めていく。また、昨年開催した説明会の中で、配付資料を多めに持って帰り、地域で啓発して下さった方もいる。全体の意識を向上していけるよう取り組んでいく。

【委員】

私は一部事務組合で運営する不燃ごみと可燃ごみの施設を所管している。先ほどから出ている分別意識のことなどは小学4年生対象の施設見学でしっかりと伝えている。

また、組成調査の具体的な内容を教えてほしい。

【事務局】

組成調査は毎年11月に行っている。

陸地部の人口密集地域と密集地域外、島しょ部の3つに分けて調査している。

10地区弱のごみ捨て場からサンプルを抽出し実施している。

【会長】

これまで出た意見をまとめると廃棄物減量推進員の活用、また推進員間の意識の違い。推進員と地域住民とのつながりが課題となっている。

また、資源化物の分別を進める上で、プライバシー保護の問題や地域コミュニティが薄れている中、干渉しすぎることできない中でどう進めるかも課題。

さらに、組成調査を見るに可燃物では古紙・プラ製品の分別周知徹底、生ごみの減量推進（水切り徹底・手つかず食品削減）、不燃物では小型家電のリサイクル推進が課題。ピックアップ回収をしている自治体もあるが、費用が伴うことでもある。

引き続き何か意見はないか。

【委員】

私の住んでいる地区は空き家が多い。昔ほど分別ができていない。

我が家では分別をしっかりしているので、30Lが2/3程度ですんでいる。

町内でさらなる活動が必要。個人の意識に加え、推進員や役員の活動がより必要では。

ごみ袋については、分別をしっかりすると袋が余る状態でもったいない。完全有料化にしてよいのではないか。

【委員】

私の子供が学校関係の仕事をしているため、児童たちに教えるため分別している。

そのためごみ出しは苦勞していない。

【委員】

私は新横島に在住している。廃棄物減量等推進員の存在を最近知った。

推進員の方、あまり意欲的でない。町内の方も推進員の存在をご存じなかった。私もよく勉強していく必要があると感じている。

【委員】

私が住んでいる地域は80戸足らずの田舎の集落。昔の消防器庫を改造し、いつでも分別を出せる。当初は指導する当番がいたが、年月の経過でいなくなった。

違反ごみのチェックをしてくれるのはありがたい。ごみ出しの仕方を知らない人もいるのでは。また、製品プラスチックの回収開始したものもいいのでは。

【会長】

ご意見を聞く限り、分別の理解が機能として弱っている。その部分をどう強化・復活するかが課題。その中で分別指導する体制に推進員をどう位置付けるか。

笠岡市は直営+委託の収集体制のようなので、その連携をどうとって把握・指導をするか。倉敷市の事例ではステーションの台帳を整理、違反記録の集計をして、上位をローラー作戦で指導し改善している。そうした意味で収集作業員の指導記録を残し、指導するところに推進員に入ってもらえれば。

雑紙回収の強化の面では、加古川市では雑紙回収袋を全戸配布した。毎回する必要はなく、時期を置いて何度か行いきっかけにする、習慣化できれば。

岡山市では古紙回収の民間ルートの回収量も数量把握し計画に入れている。民間に流れた分はリサイクル率が低く見えてしまう。

また、笠岡市内にあるC F Pが着目されている。コスト効率がいい。見学ができるのならいいのでは。

生ごみは水切り徹底でかなり減る。川越市の例では生ごみカラットを使用すると25.9%の効果があったとのこと。私の知る範囲での情報提供です。

【事務局】

分別の指導は直営・委託部分とも、違反理由を明確に記載し、指導を行っている。上位の指導については、参考にさせていただく。

また、市民説明会の際に民間の資源回収を利用しているか、自分で食品ロス削減に向けた取り組みをしているか、アンケートをとったところ、どちらも5割以上の方が行っていた。

【会長】

課題のターゲットは明確になっているので、どのように対応していくか。

【委員】

ごみを減量する価値があるかを伝えていかななくてはならないのでは。
キャッチフレーズのいいのがあるといいのでは。

【事務局】

相対的に見れば笠岡市民の分別収集の意識は高いと考えている。組成調査の経過を見てもわかる通り、資源化物がごみとして出されている現状があり、条例改正でゴミ袋の容量見直しを行った。ただ、委員の意見にもあったとおり、ご家庭によってはゴミ袋が余っている。冒頭申し上げた通り、組成調査で30Lの資源化の割合と20Lの資源化の割合を丁寧に調査していく。焼却場の試運転開始や製品プラスチック・リチウムイオン電池の分別収集開始など、令和7年度から令和8年度にかけて大きく制度が変わっている。今回開催した市民説明会では推進員の方にも周知・ご参加いただき、約380名に参加いただいた。

皆さまの知識や経験を反映できるものから反映していきたい。

議事事項2 その他

- (1) 新ごみ焼却施設の試運転開始について
- (2) 製品プラスチックの回収について
- (3) リチウムイオン電池の分別収集について
- (4) 会議結果のHP公開について

【レジュメ11ページについて、事務局が説明】

【会長】

リチウムイオン電池については爆発して施設が停止する事例も起きている。
流動床の前処理で爆発したという話も聞く。新工場はストーカ式か？

【委員】 ※新焼却場を所管

ストーカ式です。

【委員】

製品プラスチックの回収量は。収集面・費用面の負荷はあるのか。

【事務局】

これまでの「その他プラスチック」と一括して回収しているため、収集面での負荷は発生していない。収集量は計画では年30トン程度を見込んでいるが、今後進めていくまではっきりしたことはわからない。

【委員】 ※新焼却場を所管

リチウムイオン電池が不燃物にかなり混ざっている。コンベアで職員が手選別しているが、限界がある。手選別で漏れたものはその後の破砕処理で毎日のように火花や煙が出ている。幸い大きな火事には至っていないが、分別するよう皆さまに改めてお願いしたい。

【会長】

笠岡市の小型家電・リチウムイオン電池の分別方法は。

【事務局】

小型家電については、これまでもリサイクルボックス市内各所に設置していた。
この12月からそこに隣接する形でリチウムイオンの分別ボックスを設置している。
拠点回収形式で行っている。

【委員】

火災防止は広報課題として考えてほしい。

【委員】

リチウムイオンの具体例は。乾電池などとは違うのか。また気を付けることは。
大きな字で広報しては。

【事務局】

モバイルバッテリーやシェーバーなど、充電して何度でも使えるのが特徴。モバイルファンやイヤホンなどありとあらゆるものに使われている。

市民説明会や出前講座でも廃棄にあたっての、充電を使い切る（放電）ことと絶縁処理をすることの2つをお願いしている。

【会長】

住民の自覚を促す広報を施設と連携してやってほしい。収集現場との情報共有を。

【委員】

違反シールの件数を可視化しては。
自分のごみが違反ごみとわかっていても持ち帰らない人がいる。

【委員】

ステーションに他所から持ち込まれるごみはどうすればよいか。どこから持ってきているかわからない。

【委員】

私の地元でも昔は朝早く出し場を開けるルールだったが、夜勤の人や仕事の形態の都合で、前日夜からステーションをあけるため、夜間に持ち込まれる。啓発看板はあまり効果がない。

【委員】

不法投棄にはならないのか。

【会長】

先日別の自治体のパブリックコメントで自由に出せるようにという意見があった。
町内会の外から出す人には、ある程度特定してなにがしかの対策ができないと難しい。
プライバシーの問題もある。

【委員】

多言語で啓発する看板を市からもらい、設置しては。

【会長】

何かしらの警告はある。文面はアイデアがいる。
減量等推進員の温度差に応じて対応していくことが必要ではないか。
自動車に再生プラを使わないと流通できなくなるという流れがヨーロッパで発生するかもしれない。

6 閉会

【副会長からあいさつ】

リチウムイオン電池の使い切る、絶縁処理するという事はこの会議で初めて知った。
多岐にわたる製品に使われているにもかかわらず、周知が進んでいないことに、驚くとともに、気をつける必要があると感じた。その時々で早く注意喚起し、理解を得ることが重要だ。